

AIESEC in Japan  
Annual Report **2015**

# Contents

## アイセック・ジャパンについて

会長・代表挨拶 .....	3
アイセックが目指すもの .....	4
事業内容 .....	5

## 今年度の成果報告

受け入れ国一覧・成果報告 .....	6
送り出し国一覧・成果報告 .....	7
受け入れ事例紹介 .....	8
送り出し事例紹介 .....	9

## 活動報告

海外渡航の際の安全対策 .....	10
安全対策への想い .....	11
人材育成に関する取り組み .....	12
組織向上に関する取り組み .....	13
イベント開催・メディア掲載 .....	14
パートナー・協賛企業紹介 .....	15

## 財務報告

貸借対照表 .....	16
活動計算書 .....	17

次年度代表挨拶 .....	18
---------------	----

団体概要 .....	19
------------	----

## 会長・代表挨拶

### アイセック・ジャパン会長



#### 各務 茂夫

東京大学教授  
産学協創推進本部イノベーション推進部長  
特定非営利活動法アイセック・ジャパン  
会長

テロ、難民問題、資源問題。震災復興支援、少子高齢化問題、年金問題。社会にはいくつもの分野を渡って、複雑に絡み合った問題があふれています。今、私たちには分野をまたがって協力を引き出し解決へ導くリーダーが必要です。若い人々は様々な刺激を受け、人類の未来を創るリーダーへと成長する可能性を秘めています。「アイセック」はその若者たちに世界の平和と発展を託そうと願い立ち上がりました。そして、その思いに応えた者たちが「平和で人々の可能性が最大限発揮された社会」という理想を掲げ今日まで活動してきました。

世界のどこかで起きた小さな出来事が世界的波紋を生み出す現代において、一件一件のインターンシップという経験は波紋のように広がり大きな影響を生み出します。その影響力と平和で豊かな社会を築こうとするアイセックの使命を重く受け止め、インターンシップ交換プログラムをより盛んにしたいと考えます。

アイセック・ジャパン設立50周年を迎えた2012年、忌まわしい事件により送り出した一人のインターン生が命を落とす極めて不幸な出来事に見舞われました。この事件を受け、私どもは改めて活動の安全性を点検、向上いたしました。今後も亡き御霊に報い、一層の危機管理体制の整備を図ってまいります。そして、安全で若者の成長につながる経験を生み出してまいります。

皆様のご指導、ご支援を切にお願い申し上げます。

### アイセック・ジャパン事務局長

いま社会から求められている存在は、閉塞感漂う日本社会に変革を起こし新しい時代を切り開く先駆者であり、そしてその主体は若者である、と私たちは信じています。世界は、インターネット普及の加速やデバイスの革新により急速に変化している一方で、貧困、医療、教育、いずれの社会課題も残念ながらいまだに解決されないままです。いつの時代も課題が山積み、社会が停滞すれば、新たな歩みを創りだすリーダーが現れます。

今また、新たなリーダーが確実に求められています。

課題が山積みの世界に歩みを創りだす存在が。

新しい時代を創造し革新を興せる若者が。

故にアイセックは、海外インターンの運営と参加を通じ、実践的なリーダーシップの経験を積むことで、未来を切り拓くリーダーを輩出することを絶対の使命とし、日々活動しています。

厳しい課題を抱える現代において、私どもの創り出す価値をより高めていくために産学官とも連携し、アイセックの使命を果たしてまいります。

必ず、世界は今より良くなる。

そう信じて、これからもアイセック・ジャパンは全力で活動を続けていきます。



#### 渡邊 拓

慶應義塾大学 商学部 4年  
特定非営利活動法人アイセック・ジャパン  
事務局長

## アイセックが目指すもの

### Vision

WE STRIVE  
TO ACHIEVE  
*Peace*  
&  
*Fulfillment  
of  
Humankind's  
Potential*

#### Peace & Fulfillment of Humankind's Potential

私たちは、平和で人々の可能性が最大限発揮された社会の実現を目指します。

「平和」とは、単に戦争が無いというだけではありません。  
文化や宗教といった、様々な差異による衝突が生じないこと。  
一人一人が他者を理解し尊重できる社会。  
そして、一人一人が自分の可能性を信じ、最大限に生かせる社会。  
これが、私たちの目指す社会です。

#### 2020年に向けて

来たる2020年に向け、アイセック・ジャパンは  
海外インターンシップを通して「社会課題解決」へ取り組みます。  
複雑性を増し、解決が困難な社会課題。  
解決の力となる新しい発想とエネルギーを持つ未来のリーダー輩出のため、若  
者に社会課題解決へ取り組む経験を提供する。  
そんな存在になるべく、私たちは努力します。

### Mission

#### 共創的リーダーの輩出



社会に広がる複雑な問題の数々を解決するためには、  
ひとりの力、あるいはひとつの組織の力ではなく、  
多くのセクター、多くの専門領域を巻き込んだ新たな変革が必要です。  
アイセックはこの変革を推進するリーダーを輩出することで社会に貢献します。

## 事業内容

### Our Approach

#### 海外インターンシップ事業

私たちは海外インターンシップの受け入れと送り出しを行っています。  
実践的に社会課題解決へ取り組む経験を通し、若者がリーダーシップ・専門性・志を得て、共創的リーダーとなる機会を提供します。  
また、輩出した若者を繋ぎ、新たなアイデアが生まれるようにすることで彼らの社会課題解決への取り組みをサポート。  
より、未来の可能性を広げていきます。

海外インターン生

#### 送り出し

##### Before

渡航前の期間には、インターンシップ先で求められる社会課題についての知識や専門性を事前に身に付け、海外インターンの期間だけでない学びを獲得します。

##### Internship

インターンシップ先の企業やNGOでは、実践的な業務に取り組み、自発的に周囲を巻き込み、社会課題の解決にあたります。

##### After

海外インターンを終えた共創的リーダーが実際に社会課題を解決することをサポートするため、彼らをネットワーク化してアイデアを生み、将来の可能性に対して投資を行います。



##### After

海外インターンを終えた共創的リーダーが実際に社会課題を解決することをサポートするため、彼らをネットワーク化してアイデアを生み、将来の可能性に対して投資を行います。

##### Internship

インターンシップ先の日本企業では、業務を学びつつ、自発的に周囲を巻き込み、社会課題の解決と企業の課題解決の両方に取り組んでいきます。

海外インターン生

#### 受け入れ

##### Before

渡航前の期間には、インターンシップ先で求められる社会課題についての知識や専門性を事前に身に付け、海外インターンの期間だけでない学びを獲得します。もちろん企業の事前課題といったかたちも可能です。

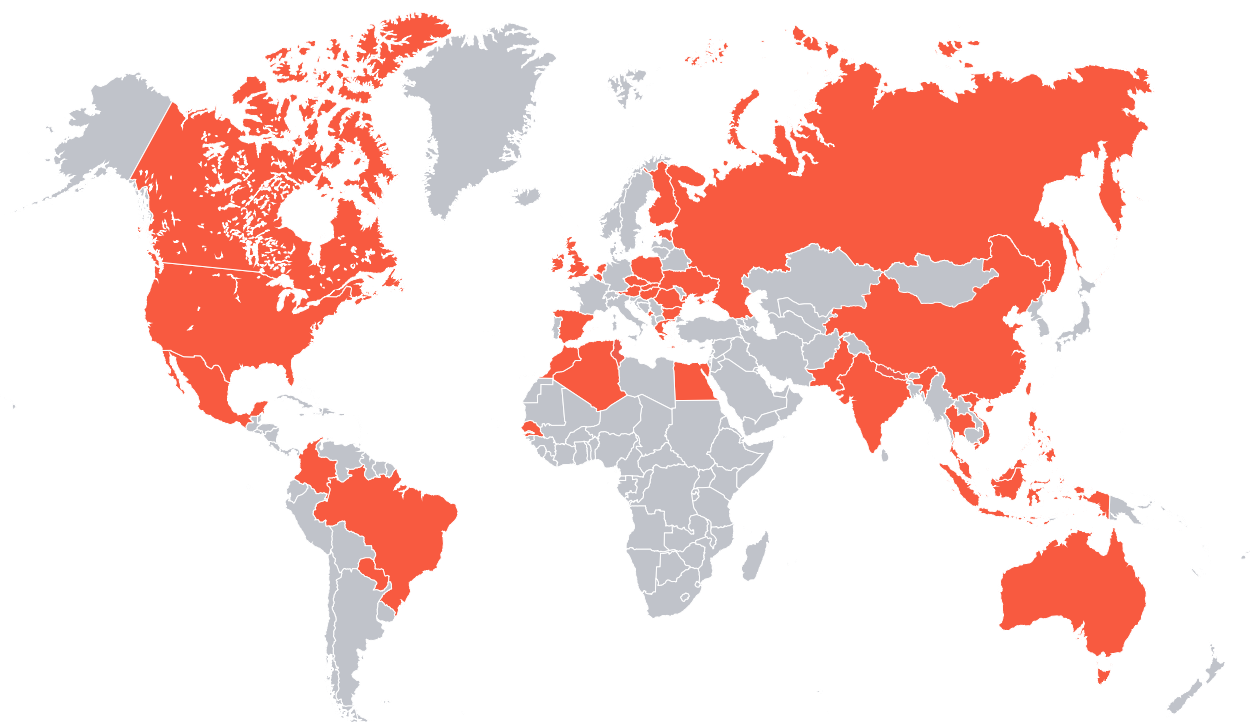
InComing eXchange

## 今年度の成果

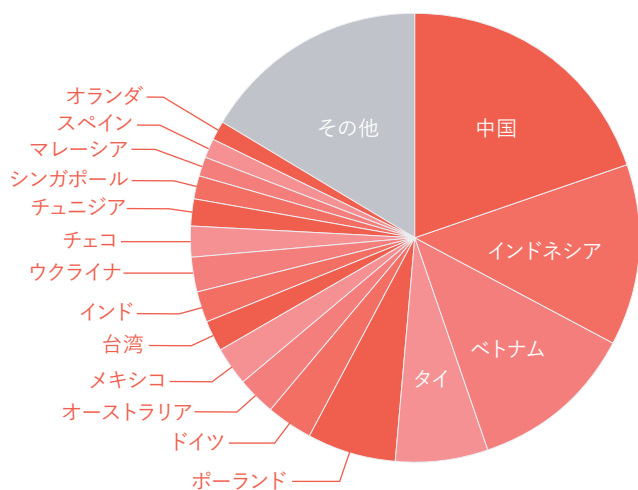
### 受け入れ事業

今年度の受け入れ件数は、アイセック・ジャパン過去最高の数字となりました。組織的な要因としては、組織内での運営ノウハウ蓄積による活動量の増加、外的には、海外、特にアジアの優秀な人材に対する企業側のニーズの高まりが継続していることが要因と考えております。

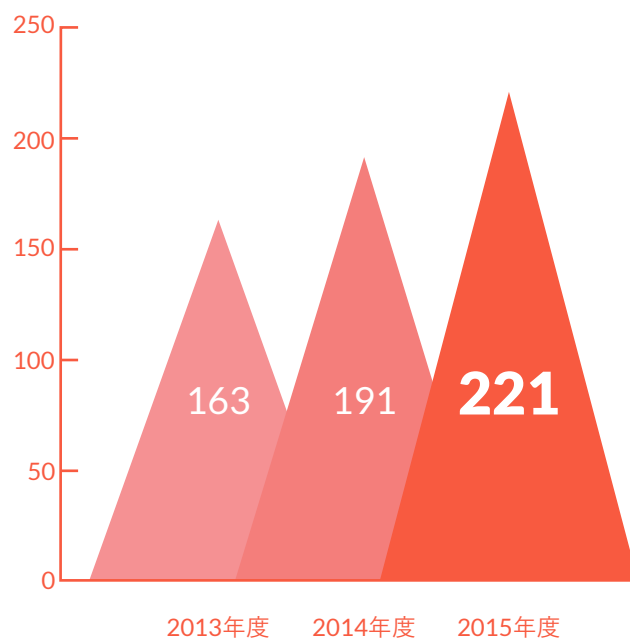
#### ● 今年度の受け入れインターン生出身国



#### ● 今年度のインターン生出身国の内訳



#### ● 過去3年間の受け入れ件数の推移

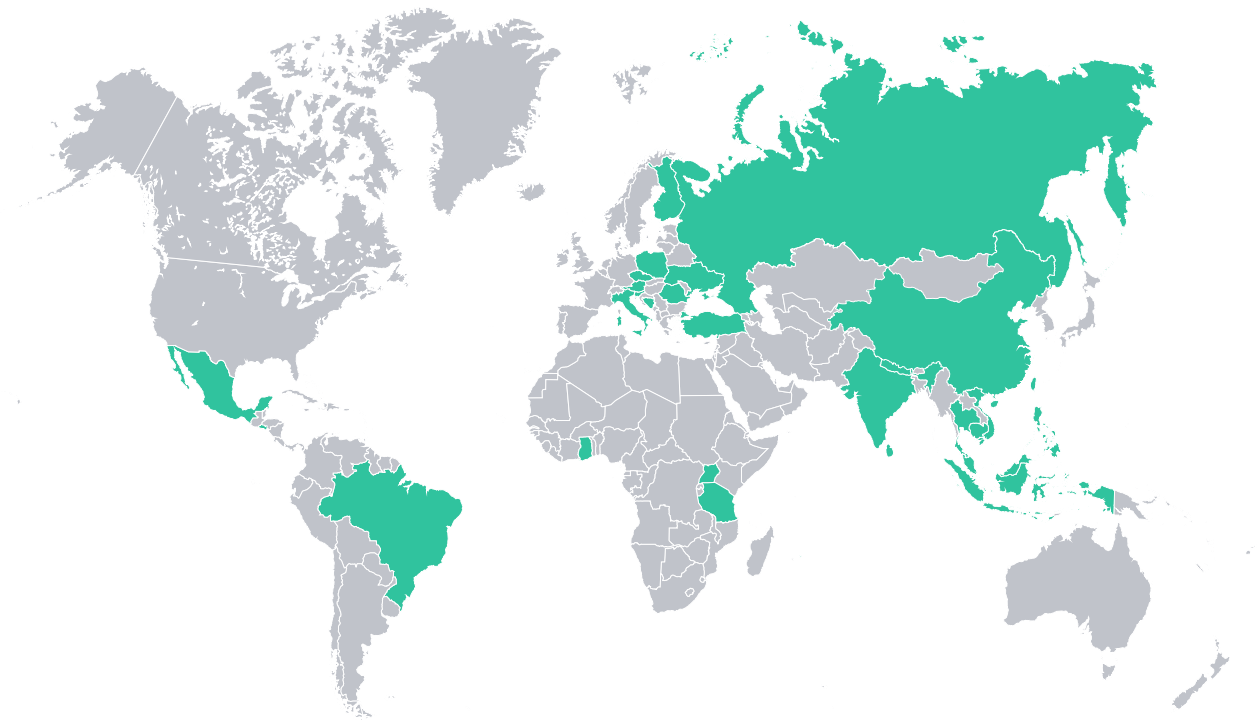




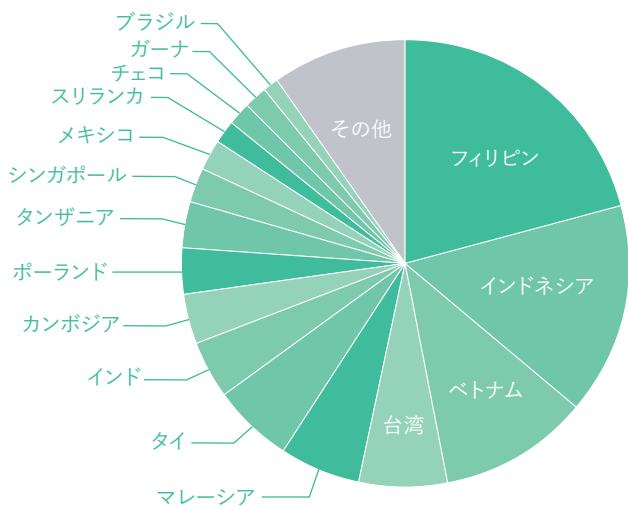
## 送り出し事業

送り出し件数は前年比で微減となりました。組織的な要因としては、プロモーションの段階でSNSやWebを上手く活用できておらず、幅広い顧客にリーチできていないこと、外的には、海外インターンシップや留学といった競合の増加、国内インターンシップなど、海外インターンシップに代わる機会が増加が要因と考えております。

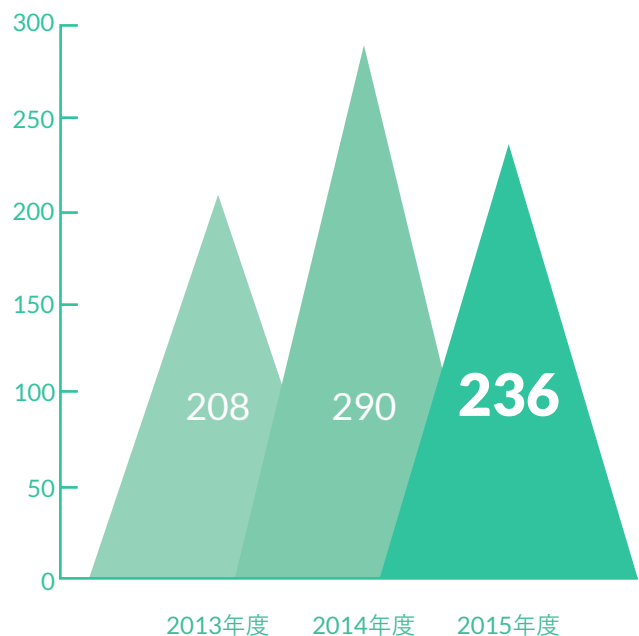
### ● 今年度の送り出し国



### ● 今年度の送り出し国内訳



### ● 過去3年間の送り出し数の推移



## 活動紹介 | 受け入れ事業

### プロフィール/基礎情報

- 受け入れ企業: エーザイ株式会社  
インターン生名前: サニアさん  
担当委員会: SFC  
インターン期間: 6週間  
出身国: インドネシア  
大学: ガジャマダ大学医学部  
インターン内容: リンパ系フィラリア症及び製薬会社の仕組みや医療現場について、現場視察を中心に学ぶ。

## リンパ系フィラリア症制圧に向けて、 ヒューマン・ヘルスケアから学ぶ

エーザイ株式会社様

### アイセックのインターンシップは、若者が「人間力を高める場」である

顧みられない熱帯病 (Neglected Tropical Diseases: NTD) の一つであり、東南アジアを中心に世界で1億2千万人以上の人々が感染し、約12億人が感染リスクにさらされているリンパ系フィラリア症 (LF)。このLFに対するWHOの制圧プログラムを支援しているエーザイ株式会社は、今回、その制圧支援活動の一環として、インドネシア ガジャマダ大学医学部のサニアさんをインターンシップとして受け入れました。

エーザイのLF制圧支援活動は、広く社会のパートナーと連携しながら革新を生み出す「オープン・イノベーション」の考えに基づき推進しております。各国の若い世代にも協力を得る意味で医学部生の参加を考慮し、今回アイセック様を通してサニアさんのインターンシップを受け入れました。

サニアさんはまず薬剤集団投薬(MDA)の現場に参加し動機付けを高めました。研修では大変積極的に活動し、様々な団体によるNTDに対する取り組み、日本におけるリンパ浮腫治療や感染症対策の状況、製薬企業の業務等に関し、多くのことを学ばれました。

最後には、約6週間の学習内容、帰国後取り組みたい活動について、エーザイの社員の前で発表しました。エーザイの内藤CEOの前でも発表する機会が設けられ、サニアさんは

今後の活動に直結する成果を発表されました。自らリーダーシップを発揮し関与していく内容に内藤CEOも非常に感心し、面談時間が延長されたほどです。

インドネシアでは2015年より国を挙げたLF制圧への取り組みが始まりました。サニアさんには今後、インターンシップで学んだ成果を活かしてこの潮流を牽引するリーダーになって欲しいですね。

日本での6週間は彼女にとって「自分一人ではできない」ことを学ぶ経験でもあったと思います。それは「Task」という作業的な仕事ではなく、「Career」「Calling (使命)」という自分の人生を考える機会に繋がるのではないのでしょうか。アイセックのインターンシップは、まさに若者が「人間力を高める場」であると思います。

サニアさん

### 心配になってもいい。大事なことは、それでも必ずなんとかなると信じることに

今回のインターンシップは私にとって初めての海外経験でした。

インターンシップであれば、異文化を学びその国の人々と関わるのはもちろん、実際に社会へ出る前に「動く」ことについても学べます。さらに、受け入れ企業のエーザイ株式会社は世界的に有名な製薬会社です。特に「ヒューマン・ヘルス・ケア」という考え方や、

患者と家族を第一に考える会社の理念に共感しました。だから、このインターンシップという機会を見つけえたとき、迷いなく飛び込もうと思いました。

医者を目指す学生として、このインターンシップを通し新たな体験と、医療、特にLFに関する知識を身につけたいと考えました。日本は世界の中でも最も早くLFを制圧した国です。そのため、私の住むインドネシアも日本から学ぶことができると考えました。帰国後のこれからは学んだことを友人にも共有し、LFへの社会的関心を高めることで、LF制圧運動に貢献していきたいです。

今回のインターンシップは、今までの経験から宝石を集めているような、非常に価値あるものになりました。

最初は、初めての海外・新しい環境の生活に不安でした。でも、インターンシップを通し素敵な方々と出会いました。みんなとても親切で、私のことを気遣い助けてくれました。おかげで、最初の心配もどこかへ飛んでいきました。「心配になってもいい。大事なことは、それでも必ずなんとかなると信じることに」このインターンシップで学んだ大きなことです。





## 活動紹介 | 送り出し事業

### プロフィール/基礎情報

名前: 真崎里砂  
大学: 東京外国語大学 3年  
担当委員会: 一橋大学委員会  
インターン期間: 8月3日~9月15日(6週間)  
インターン国・地域: フィリピン・ダバオ  
インターン内容: 他国のインターン生とチームを組み、  
地域活性のプロジェクトを企画・実行

## フィリピンの村にみんなが集う空間を、 国籍の違う4人での挑戦

真崎さん

### 異なる人々を一つの方向に 導いて協働を生み出せるリー ダーになりたい

私は、将来違を持った人同士が互いの良さを知り合うための架け橋のような存在になりたいと思っていました。けれど、どうしたらそんな存在になれるか・どうやって実現したらいいかを考えるための実践経験がありませんでした。

そこで、アイセックの海外インターンシップに参加しました。

参加したプログラムは、他国から集まったインターン生と4人のチームを組み、フィリピン・ダバオの村を活性化するプロジェクトを企画・実行するというものです。チームメンバーはベトナム・中国・インドネシア出身と全員国籍の異なるチームでした。このチームのリーダーに私になりました。

現地調査の結果、村には皆で共有してスポーツを楽しめる場がないことがわかりました。そこで、私たちは村共用のバスケットボールコート建設するプロジェクトを立ち上げることにしました。

また、フィリピンでよく見られる親が海外出稼ぎ労働者で子供が家に一人残されるといった状況が、この村でも見られました。そういった子供たちに地域と繋がる空間を作りたいという思いもありました。

メンバーは各々強い考えを持っており、最初

は歩調を合わせることに苦労しました。だからこそ、一人一人と何度も何度も対話し、その上で一つの方向性を示すよう意識しました。

簡単ではありませんでしたが、とにかくコミュニケーションを図ることでプロジェクトを実現できたと思っています。

無事にコートが完成し、村の皆が集ってスポーツを楽しむようになりました。それだけでなく、多くの地域の方を巻き込みご協力いただいたことで、この活動自体が村の人々を繋げる契機となりました。さらに、私達の帰国後も村の人々が協働してこの企画を続けたいという声まで上がりました。

私はこの経験を通し、たとえバックグラウンドが異なっても共に楽しい時間を過ごすことができると確信しました。将来はそういった場を職業として提供し、異なる人々を一つの方向に導いて協働を生み出せるリーダーになりたいと考えています。

### 受け入れ関係者

### 里砂が帰国し半年近く経った今でも、コートは人々の憩いの場です

このプロジェクトはミンタル区の人々にとって「ここは自分たちの地域だ」というコミュニティ意識を持つ機会になりました。今までただサービスを受けていた人々が、プロジェクトを通して「自分たちで一緒に作り上げていこう」と変わっていったのです。

里砂が帰国し半年近く経った今でも、コートは人々の憩いの場です。毎日、子供達が遊び、大人は1日の終わりにリラックスする。早朝と午後には特に、バスケットボール、時にはバドミントンやバレーボールといった別のゲームにも使われています。

里砂たちは、コートを作っただけでなく、地域住民が集まって共に過ごす場を創りだしてくれました。

この経験は彼女にとって貴重な経験となり、多くの視点を与えたことでしょう。言葉では表しきれないほどに、6週間で成長しました。

ここで得た学びが、これから彼女が飛び込む挑戦の数々で人々の役に立つことを期待します。

アイセックのインターン生を受け入れることは、インターン生のみでなく地域の学びでもあります。異文化や人との関わり、そして組織の関わりへの理解を深めることに繋がります。これらは、教室の中だけでは決して学ぶことができません。

さらに、ここミンタル区の若者へも刺激を与えることに繋がります。里砂たちを受け入れたことが、地域の若者が今後彼女たちのように他者を受け入れ理解し学びを深める助けになるでしょう。

ダバオ市ミンタル区 区長

里砂たちは、気持ちよく一緒に活動できる人たちでした。頑張り屋で、作業を率先してみんなを巻き込んでいきました。

コート土地提供者のご息女

プロジェクトから半年、今でもコートを訪れる人がたくさんいます。この12月にはバスケットのリーグ戦を開催しました。

プロジェクトを手伝った学生

## 安全への取り組み

「無事に海外インターンシップを終えて帰国していただくこと」アイセックではこれを第一に運営をしております。インターンでの意義のある学びも、参加者の安全が守られてこそのものであると私たちは考えます。

そのため、アイセックでは専門家の指導のもと参加者が安全にインターンを行なうための運営体制の確立に努めています。

### インターンプログラム中での安全対策

#### 渡航前の 危機管理学習

- ・社会人面接官による、参加者の危機管理能力レベルの判定
- ・危機管理講習会
- ・「危機管理ガイドライン」の配布
- ・「危機管理ガイドライン」の定着度チェックテストの実施

#### 渡航準備

- ・インターン先の選定のサポート  
選定の際には必ず外務省の出す安全情報を元に現地国の危険性を確認しております。「十分注意してください」よりも高い危険情報が出されている国への渡航・滞在は承認いたしません。
- ・渡航情報収集の義務づけ  
現地へのフライト情報について、渡航の15日以上前にアイセックと保護者への通知を義務づけています。また、緊急時に迅速に対応できるよう、現地の緊急連絡先、近隣の病院・警察署の情報を渡航前に調べた上で渡航していただきます。
- ・海外保険加入の義務づけ  
インターンに参加する方には、海外保険への加入を義務付けております。アイセックでは、伝言サービス・緊急時送迎手配サービスが含まれる日本興亜損保の海外保険を推奨保険としてご紹介しております。

#### 渡航時

- ・空港までの出迎えサポート  
到着後は、空港までアイセック現地担当者が出迎えをいたします。万が一出迎えができない場合には、外部の送迎サービスを利用していただき、一人での公共交通機関の利用は控えていただいております。
- ・到着確認  
インターン生の安否を確実に把握するため、現地到着後1.5時間以内にアイセック現地担当者と合流した旨を日本の担当者に連絡することを義務づけています。現地到着時刻には、日本の担当者および事務局員が連絡を迅速に確認できるよう待機しております。また、万が一の場合でも即座に対応できるよう、提携している危機管理専門会社でも到着状況を随時チェックしております。

#### 現地滞在中

- ・日本担当者との連携  
アイセック日本担当者と週1回以上連絡を取っていただき、インターンおよび現地での生活の報告や相談の場を設けております。
- ・24時間対応窓口  
病気・怪我・自然災害・政変による情勢悪化等の予期せぬトラブルに遭遇した場合、提携している危機管理専門会社の設けている24時間相談窓口を利用いただけます。この窓口にて、病院のご案内や、トラブルへの対処方法を提示いたします。また、伝言サービスにより日本にいる保護者の方に確実にメッセージをお伝えすることも可能です。

#### 帰国時

- ・帰国サポート  
帰国時には危機管理ガイドラインに基づいて帰国便の選択をしていただき、必要に応じて帰国時に必要な情報を提供いたします。また、日本到着まで確実に安否を確認するため、飛行機の乗り換え時や日本到着時にはアイセック日本担当者へ連絡をしていただきます。

### 外部との連携について

#### ・海外安全管理委員会の実施

アイセックでは、春季と秋季の二回、安全管理体制を監査するための諮問委員会を開催し、第三者の有識者や危機管理の専門家の方々より指摘・提言をいただいております。

#### ・危機管理専門会社との提携

確実に参加者の皆様の安全を守る為、安全サポート株式会社様に24時間対応窓口などの参加者への安全サポート業務や弊社への危機管理コンサルティングや委託しております。

## 安全対策への想い

### 安全サポート株式会社

アイセックの海外インターンシップは、明日の日本を背負う人材を輩出する重要な活動です。また、その活動は、外国人に比べて危機管理意識や危機対応能力が欠如していると言われることもある我々日本人が、海外でどのように自分の身を守るのか、海外に送り出した人間をどのように守っていくのか、これを実践する場でもあると考えます。

頻発するテロ以外にも世界中で様々な危険は明らかに増しており、研修生はその危険と隣り合わせです。そのような中で、事務局／委員会／安全サポートの三位一体の見守り体制は極めて重要な役割を持っています。

4年前の悲しい事件を絶対に繰り返さないためにはこの体制が確実に機能していることが不可欠です。

我々安全サポートは今後も事務局、委員会と連携し全力で取り組んで参ります。



安全サポート株式会社代表取締役 有坂錬成

### アイセック・ジャパン事務局



海外インターンシップの運営を行っている弊社にとって、海外渡航における危機管理は非常に重要な課題のひとつです。初めて海外に渡航するというインターン生もいらっしゃるので、組織としてどのように仕組化すればインターン生の渡航の準備や危機管理意識の醸成に貢献できるのか、常日頃から考え、実行しております。

特に、2013年度から危機管理会社との提携を開始し、24時間利用できるホットラインの設置や危機管理講習会の実施など、体制の強化を行ってまいりました。

私は、1年間送り出し研修事業の統括として活動し、約240名のインターン生の安全を見守ってまいりました。すべてのインターン生の無事の帰国を確認したときは大きな安堵とともに、私たちの安全に対する取り組みが、多少なりともインターン生の安全に寄与したと考えると、大変誇らしく思えました。

危機管理の領域において、完璧な状態は存在しえないと考えております。だからこそ、常により良い状態を考え、改善の取り組みをしていくことが、重要です。アイセック・ジャパンは、これからも安全・安心な海外インターンシップを目指して邁進してまいります。

アイセック・ジャパン事務局 海外危機管理責任者 河西沙央理



## 組織向上とメンバー育成に関する取り組み

### マネージャー育成 (仕組み)

アイセック・ジャパンでは、一件一件のインターンシップにマネージャーを手配しております。送り出し事業は各インターン 生様、受け入れ事業は各企業様に担当者が1名つきます。このマネージャーに対し、内部でテストを実施。一定基準を満たし合格した者のみがマネージャーとして活動しております。また、メンバーが必要知識をつけるための資料配布、セミナーも定期的に行っております。

### Induction Conference (合宿型セミナー)

これからアイセック活動を始める新入生を対象とした合宿。海外のメンバーを司会進行に招き「アイセックとは何か」「リーダーシップとは何か」を様々なワークを通して考えました。また、この一年でどのように成長し、今後の大学生活とアイセックの活動をどのように送るのか描き、上級生とともに2日間徹底的に深めました。新入生にとっては初めての大型合宿企画、他大学の委員会メンバーと関わる機会でもあります。

日時	関東: 6月6日~6月7日 関西: 6月20日~6月21日
場所	関東: つくばグランドホテル 関西: 白浜荘(滋賀)
対象	アイセック新入生メンバー(大学1年生)600名

### Japan Leadership Development Seminar (合宿型セミナー)

日本国内で開催する国際会議。海外約20ヶ国のメンバーも参加し、全編英語で進行します。各国の文化紹介や交流に始まり、「Architect the Next Generation」をコンセプトに、デザイン思考を取り入れながら社会の変化を見据えたアイセックの長期方針を5日間かけて構想。実際に世界で活躍する企業様の講演会も交え、その場で学んだことをヒントに議論を深めました。

日時	8月13日~8月17日
場所	つくばグランドホテル
対象	アイセック・ジャパン会員(主に1・2年生) 50人 海外アイセック会員 30人
登壇パートナー	Google Japan Inc. The Huffington Post Japan, Ltd. 株式会社 日本経済新聞社
協力パートナー	スリーエムジャパン株式会社 レッドブル・ジャパン株式会社 ジョーンズラングラサル株式会社



## Summer Camp (合宿型セミナー)

次年度以降、各委員会の経営に携わるメンバーへ向けた合宿型セミナー。今世界はどうか、自分やアイセックは其中で何を担うのかを考え、グループで新規事業を立案。ワークを通し新たな価値や変革を作り出す疑似体験を積みました。起業家によるトークセッションも行い、新たな物を描き創出するために必要なスキルや考え方も学びました。

日時	9月14日~9月17日
場所	晴海グランドホテル・晴海旅客ターミナル(東京)
対象	アイセック・ジャパン会員(主に1・2年生) 220人
登壇パートナー	投資家1名 金 靖征 様 (株式会社Candle代表) 朴 勝吉 様 (株式会社Ezmom代表) ハナワ ヨシノリ 様 (株式会社飛脚堂代表)

## Webマーケティング講座 (セミナー)

各委員会の広報担当者を対象としたWebを通じた広報の戦略立案及びWebサイト運営に必要なITスキルを習得するセミナー。第一回ではIDCFロンティアのクラウドコンピューティングサービスである「IDCFクラウド」を利用支援いただき、サーバーの立ち上げから実践。第二回ではWordpressを利用しランディングページを作成しました。

日時	6月及び8月 計2回
場所	関東・関西で開催
対象	各委員会広報担当
登壇パートナー	株式会社IDCFロンティア 株式会社ピチカートデザイン代表取締役
協力パートナー	株式会社IDCFロンティア

## Developing Leadership Day

オンライン学習サービス「スタディサプリ」開発考案者で、リクルートマーケティングパートナーズ代表取締役社長 山口文洋 様、アフリカ ルワンダで国際協力団体と農民を繋げるプロジェクトを牽引しTED「世界の12人の若者」にも選出された牧浦土 雅様を迎え、弊団体メンバー200人を対象とした講演会を実施。「社会を変える人材『共創的リーダーシップ』とは何か」をテーマにお話いただきました。

日時	3月10日 16:30~18:00
場所	国立オリンピック記念青少年総合センター(東京)
対象	アイセック・ジャパン 会員(全国の大学生約200人)
登壇パートナー	山口文洋様(リクルートマーケティングパートナーズ代表取締役社長) 牧浦土雅様(2014年1月、TEDの選ぶ『世界の12人の若者』選出)



## イベント開催・メディア掲載

### Events

#### Réunion 2016

パートナーの皆様・OBOGの皆様と全国メンバーの交流会を開催。  
54社70名がご来場くださり、25大学委員会メンバー合わせて150名が集いました。

日時	3月13日(日) 14:00～17:00
会場	国立オリンピック記念青少年総合センター
内容	アイセック・ジャパン会長及び学生代表挨拶 関係パートナー様感謝状贈呈 海外インターンシップ受け入れ実例報告 パネルディスカッション「トライセクターの課題と未来」 交流会
パネルディスカッション登壇者	森健志郎(動画学習アプリ「school」株式会社スクー代表取締役社長) 平澤典男(青山学院大学 地球社会共生学部 学部長) 渡邊拓(アイセック・ジャパン 2016年度専務理事) 各務茂夫(アイセック・ジャパン会長、東京大学 教授、産学連携本部事業化推進部長)

#### 「海外で働く」を知るコラボイベント

アイセックの小林あやめさん、海外ボランティア最大手「ボランティアプラットホーム」堀佐知子、「ジョブウェブ」の運営する海外インターンシップサービス「AJITORA」の菊地恵理子様による、「海外で活躍する3人だからこそ分かる海外で働くことのリアル」と題してのパネルディスカッションイベント。

開催日時：2015年11月25日

#### ワールドカップフードフェス

株式会社ワークスアプリケーションズと一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト主催、高校生が食を通じて世界を知るための大規模イベント。アイセック・ジャパンも運営に協力しました。

開催日時：2015年11月14, 15日

### Media

「海外インターンシップを通し多様な価値観を身に着ける——特定非営利活動法人アイセック・ジャパン」  
—就職ジャーナル(2015年10月23日掲載) [<http://journal.rikunabi.com/p/student/report/17696.html>]

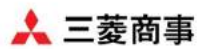
「今の就活でグローバルに翔べますか？」  
—GROW Magazin(2016年2月2日掲載) [<https://magazine.grow-to-global.com/interview/growuser/p92.html>]

「【学生団体インタビュー】アイセック・ジャパンの次期代表、福村圭祐さんに突撃インタビュー！アイセックがこれから目指す未来とは。(慶應大学経済学部3年)」  
—Via career[<http://via-career.jp/frees/article/138/>]

「次代を担うグローバルリーダーを育むアイセックの“海外インターンシップ”」  
—愛知県経営者協会の機関誌『愛知経協』8月号

「日本語スピーチ・コンテスト優秀者日本招聘事業」  
—日外協 [[http://www.joea.or.jp/activity/exchange/speechcontest/30th\\_speechcontest](http://www.joea.or.jp/activity/exchange/speechcontest/30th_speechcontest)]

## パートナー / 協賛企業紹介



## 2015年度会計報告

### 連結貸借対照表

平成28年3月31日現在 (単位: 円)

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	57,514	未払金	4,391,286
普通貯金	42,870,048	預り金	1,717,895
定期貯金		借入金	
有価証券		法人からの借入金	670,599
立替金	2,326,251	現金過不足	
法人への貸付金	1,978,429	源泉不明金	
保証金	908,856	負債合計	6,779,780
基本金引当預金	8,944,171	正味財産額	61,577,579
積立金引当預金	11,272,090	(うち当期正味財産増減額)	11,374,585
使途不明金		(うち前期繰越正味財産)	50,202,994
		(うち企画準備金)	
資産合計	68,357,359	正味財産合計	61,577,579
借方合計	68,357,359	貸方合計	68,357,359

### 連結活動計算書

#### 1. 収入の部

自: 平成27年04月01日 至: 平成28年03月31日 (単位: 円)

項目	決算額	前年度決算額	差額
海外研修生受入事業収入	6,930,000	5,850,000	1,080,000
海外研修生送出事業収入	4,860,000	5,218,000	▲ 358,000
学生会員会費収入	15,055,000	14,820,000	235,000
賛助会員会費収入	8,636,548	10,522,000	▲ 1,885,452
寄付金収入	3,247,802	2,970,100	277,702
補助金等収入	517,000	639,000	▲ 122,000
企画賛助収入	57,152	151,584	▲ 94,432
広告賛助収入			
法人からの収入	84,000		84,000
基本金引当預金取崩収入		77	▲ 77
積立金引当預金取崩収入	70,000	70,000	
保証金戻り収入			
基本財産運用収入	1,512	1,448	64
雑収入	40,180	53,409	▲ 13,229
当期収益合計	39,499,194	40,295,618	▲ 796,424

## 2. 費用の部

自: 平成27年04月01日 至: 平成28年03月31日 (単位: 円)

項目	決算額	前年度決算額	差額
<b>(1) 事業費</b>			
印刷製本費	106,015	62,480	43,535
旅費交通費	5,217,345	8,175,598	▲ 2,958,253
施設使用料	1,048,989	2,030,870	▲ 981,881
会議費	6,720,730	5,898,584	822,146
委託費	461,239	453,530	7,709
諸謝金	292,932	292,231	701
飲食費			
宿泊費			
消耗品費	76,501	367,788	▲ 291,287
什器備品費			
通信運搬費	7,906	1,543	6,363
光熱水料費	403,917	592,460	▲ 188,543
賃借料			
保険料			
会員加盟費			
年会費			
会員団体への費用			
法人への維持管理費用負担金費用			
法人へのその他の費用			
保証金支払支出			
基本金引当預金積立支出			
積立金引当預金積立支出			
支払手数料	2,916		2,916
雑費	24,407	65,342	▲ 40,935
<b>事業費計</b>	<b>14,362,897</b>	<b>17,940,426</b>	<b>▲ 3,577,529</b>

項目	決算額	前年度決算額	差額
<b>(2) 管理費</b>			
印刷製本費	114,340	257,282	▲ 142,942
旅費交通費	762,965	1,268,264	▲ 505,299
施設使用料	1,495,080	1,640,862	▲ 145,782
会議費	208,900	87,320	121,580
委託費	522,820	777,521	▲ 254,701
諸謝金	40,189	31,502	8,687
飲食費			
宿泊費			
消耗品費	936,067	956,372	▲ 20,305
什器備品費	8,402		8,402
書籍雑誌費			
通信運搬費	419,868	452,644	▲ 32,776
光熱水料費	103,796	91,552	12,244
賃借料	722,400	787,953	▲ 65,553
保険料	29,676	62,920	▲ 33,244
会員加盟費			
年会費	2,500,000	2,400,000	100,000
法人への維持管理費用負担金費用	11,378,468	10,388,474	989,994
法人へのその他の費用	2,957		2,957
保証金支払支出			
基本金引当預金積立支出			
積立金引当預金積立支出			
支払手数料	427,188	396,344	30,844
雑費	76,361	102,076	▲ 25,715
<b>管理費計</b>	<b>19,749,477</b>	<b>19,701,086</b>	<b>48,391</b>

当期費用合計	34,112,374	37,641,512	▲ 3,529,138
当期繰越剰余金増減額	5,386,820	2,654,106	2,732,714
前期繰越剰余金額	12,768,291	10,114,185	2,654,106
次期繰越剰余金額	18,155,111	12,768,291	5,386,820



## 次年度代表挨拶

ステークホルダーの皆さま

平素よりアイセック・ジャパンへご支援ご協力賜り、誠にありがとうございます。

AIESECは60年以上の歴史・100万人のAlumni・126の国と地域のネットワークを有し、現在では70,000人の学生が世界中で活動する世界最大の学生団体へと成長してまいりました。

また、アイセック・ジャパンは皆様に支えられ2016年で54年目を迎えます。

2016年はアイセックの理念である「平和で人々の可能性が最大限発揮された社会の実現」、使命である「次代を担うリーダーの輩出」にアイセック・ジャパン全体で立ち返ります。

私たちは、アイセックの海外インターンシップは実際に参加者の様々な能力が伸びたと証明できるようなインターンシップでなければならないと考えています。

次年度からは、今まで以上に社会課題解決とインターンシップの内容を紐付けることで、

更に本来的なインターン生の成長を生み出してまいります。

しかし、私たちメンバーだけでは達成できません。

活動を支えてくださる皆様のお力あって初めて実現されます。

私たちアイセック・ジャパンは前へ進み続けます。

その挑戦を様々な形で見守り、応援いただけると幸いです。

今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう、

心よりお願い申し上げます。

特定非営利活動法人アイセック・ジャパン 2016年度事務局長 福村圭祐





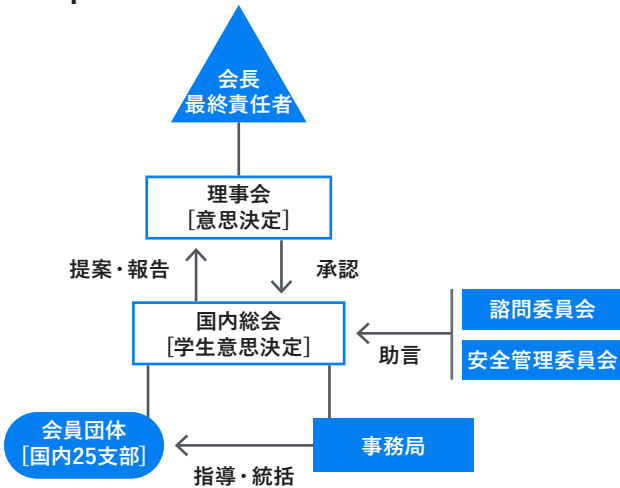
## 団体情報

### Governance

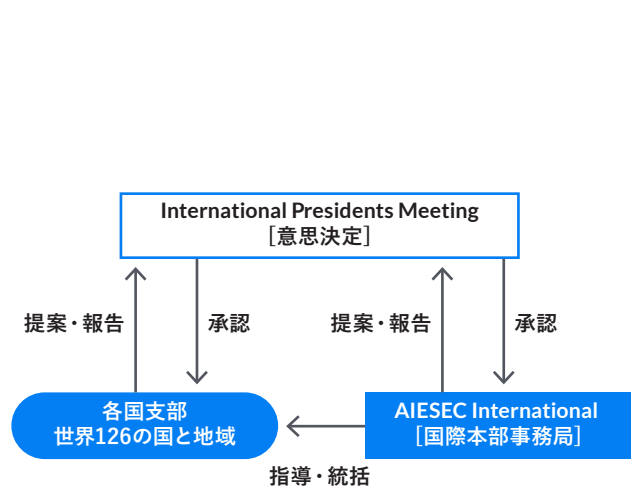
アイセック・ジャパンでは、各務会長を中心とする理事会にて最終意思決定を行い、その責任は各務会長が負います。しかし理事会での意思決定の前に運営する学生の意思決定の場として国内総会があり、会員団体である全国25大学支部で構成されます。ここでの議論の結果を理事会に提案・報告し、理事会での議論を経て承認するというのが意思決定プロセスです。専務理事・常務理事は学生理事です。諮問委員会は外部諮問が理事会や国内総会での議論、日々の運営に対し助言を与える機関であり、安全管理委員会は海外活動での安全を担保することを目的とし、外部委員から構成され日々の海外活動での安全管理に対し助言を与えます。事務局は学生によって構成され、各会員団体の活動に対し指導・統括を行います。各会員団体は各々の大学を中心として日々の活動を行う運営の主体です。

グローバルでは、各国支部の代表によって構成されるIPMが最終意思決定機関であり、すべてここでの議論を通して決定されます。国際本部 (AI) は各国支部を指導・統括し、IPMに対し提案・報告を行います。各国支部はIPMでの決議、AIの指導のもとに各国でアイセックの活動を行います。

#### ● Japan



#### ● Global



### 基礎情報

団体名	特定非営利活動法人アイセック・ジャパン
英名	AIESEC in Japan
所轄庁	東京都
設立	1962年 (2001年 特定非営利活動法人格取得)
代表	各務茂夫 (東京大学教授 産学協創推進本部イノベーション推進部長)
専務理事	渡邊拓 (慶應義塾大学 4年)
活動分野	・社会教育の推進を図る活動 ・国際協力の活動 ・前各号の掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動
事務所所在地	〒162-0814 東京都新宿区新小川町4-16 飯田橋ブラレールビル3階
電話番号	03-6457-5806
Fax番号	03-6457-5809
Email	info@aiesec.jp
会員団体数	25大学委員会
会員数	1600名程度
HP	http://www.aiesec.jp

